

July 10, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米 10 年債利回りの上昇を背景に 108.93 円まで強含み

9日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4日続伸。終値は108.85円と前営業日NY終値(108.72円)と比べて13銭程度のドル高水準だった。日本時間夕刻に一時108.96円と日通し高値を付けたものの、節目の109.00円や5月13日の安値109.02円が目先レジスタンスとして意識されると108.73円付近まで押し戻された。現物のダウ平均が140ドル超下落したことも相場の重し。ただ、米長期金利の上昇に伴う買いが入ると再び108.93円付近まで強含んだ。

もともと、10-11日のパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の議会証言を控えて様子見ムードが広がり、方向感に乏しい展開だった。今日の安値はアジア時間に付けた108.68円で値幅は28銭程度だった。

ユーロドルは3日続落。終値は1.1208ドルと前営業日NY終値(1.1214ドル)と比べて0.0006ドル程度のユーロ安水準だった。ただ、FRB議長の議会証言を控えて様子見ムードが強く、かなり狭い範囲での値動きだった。NY時間の値幅は0.0018ドル程度と小さかった。

なお、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長は「FRBは雇用指標ではなく、物価指標をみるべき」「トランプ米大統領は他の通貨が弱くなり過ぎていることを懸念」などと述べたが、相場の反応は限られた。

ユーロ円は4日続伸。終値は122.00円と前日NY終値(121.93円)と比べて7銭程度のユーロ高水準となった。NY市場では122.00円を挟んだ狭いレンジ取引に終始した。

メキシコペソは急落。ウルスア・メキシコ財務相が辞任を表明したことをきっかけに、通貨ペソを売る動きが活発化。メキシコ株式相場が軟調に推移したこともペソの重しとなり、ドルペソは一時19.3552ペソ、ペソ円は5.62円までペソ安が進んだ。なお、後任にはアルトゥロ・エレラ次官が就任する。

【本日の東京為替見通し】ドル円、パウエルFRB議長議会証言控えて動意に乏しい展開か

本日の東京市場のドル円は、本日23時からのパウエルFRB議長の半期に一度の議会証言(下院金融サービス委員会)を控えて動意に乏しい展開が予想される。

パウエルFRB議長は、昨年末までは中立金利水準にはまだ距離があるとして、段階的な利上げとバランスシートの自動操縦的な縮小という二重の金融引き締めに進むタカ派であり、米連邦公開市場委員会(FOMC)は2019年の利上げ回数を2回と示唆していた。しかし、今年になってからは、利上げに対して「忍耐強く」なり、バランスシートの縮小の停止を決定し、6月のFOMCでは、景気拡大を持続させるために「適切に行動する」として予防的利下げを示唆するハト派となり、年内の利下げを予想するメンバーが8名となった。

本日の議会証言では、史上最長の景気拡大期の中で、失業率は歴史的な低水準となり、ニューヨーク株式市場が史上最高値を更新する環境下での予防的利下げの意義が問われることになる。

米6月非農業部門雇用者数(前月比+22.4万人)を受けて、7月30-31日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で予防的利下げの確率は、0.50%は低下しているが、0.25%は依然としてほぼ確実視されている。

懸念材料は、インフレ率が2.0%に満たないこと、長短金利逆転(逆イールド)によるリセッション(景気後退)警告、すなわち、米10年債利回りが3カ月物財務省短期証券(TB)金利だけでなく、FF金利誘導目標(2.25-50%)も下回っていること、などが挙げられる。

0.50%の利下げ(確率0.5%)が示唆された場合、トランプ米大統領による圧力に屈服したことになり、ニューヨーク株式市場は歓迎しつつも、パウエルFRB議長への信頼感は失墜する。

0.25%の利下げ(確率99.5%)が示唆された場合、これまでの歴代FRB議長が、ITバブルなど株式市場の崩壊、住宅バブル市場の崩壊など、危機が起きてから事後的に金融緩和に乗り出した先例を無視して、予防的・事前的に利下げ・金融緩和に乗り出す理由が問われることになる。

もし、利下げが9月以降に先送りされた場合(確率0%)、市場を混乱させたことで、低下中のパウエルFRB議長への信頼感が失墜することになる。

利下げが9月FOMC以降に先送りされた場合、イラン情勢を巡る地政学リスクや休戦中の米中通商協議の難航懸念、来月の日米通商協議への警戒感、そして、トランプ米大統領が「為替操作ゲーム」を傍観することは間抜けとしてドル売り介入の可能性を示唆していることから、ドル円の上値はネック・ライン109.71円までだと思われる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 6月企業物価指数（予想：前月比▲0.3%／前年比0.3%）

<海外>

○09:30 ◇ 7月豪ウエストパック消費者信頼感指数

○10:30 ◎ 6月中国消費者物価指数（CPI、予想：前年比2.7%）

○10:30 ◎ 6月中国生産者物価指数（PPI、予想：前年比0.3%）

○14:50 ◎ ジョージ米カンザスシティ連銀総裁、講演

○15:00 ◎ 6月ノルウェーCPI（予想：前月比0.2%／前年比2.1%）

○15:45 ◇ 5月仏鉱工業生産指数（予想：前月比0.2%）

○17:30 ☆ 5月英国内総生産（GDP、予想：前月比0.3%）

○17:30 ◇ 5月英商品貿易収支／英貿易収支（予想：125.5億ポンドの赤字／32億ポンドの赤字）

○17:30 ◎ 5月英鉱工業生産指数（予想：前月比1.5%／前年比1.1%）

◎ 製造業生産高（予想：前月比2.1%）

○20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数

○21:00 ◎ 6月ブラジルIBGE消費者物価指数（IPCA、予想：前月比▲0.03%）

○23:00 ☆ カナダ銀行（BOC、中央銀行）、政策金利発表（予想：1.75%で据え置き）

○23:00 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、米下院金融サービス委員会で証言

○23:00 ◇ 5月米卸売売上高（予想：前月比0.0%）

○23:00 ◇ 5月米卸売在庫（予想：前月比0.4%）

○23:30 ◇ EIA週間在庫統計

○11日 02:00 ◎ 米財務省、10年債入札

○11日 02:10 ◎ テンレイロ英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演

○11日 02:30 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演

○11日 03:00 ☆ 米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（6月18日－6月19日分）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

ている」

※時間は日本時間

9 日 10:48 麻生財務相

「消費税率 10%超への引き上げ、今検討しているわけではない」

「リーマンショック級の事態が生じない限り、10 月に消費税率を 10%に引き上げる」

「イランへの米制裁、日本への影響はまだ分からない」

9 日 16:11 ドナファー・アイルランド財務相

「英の無秩序な EU 離脱の可能性が現在の大きなリスク」

9 日 16:30 中国外務省

「米国の台湾への武器売却に強く反対」

「米国と中国の通商チームは連絡を取り合っている」

9 日 16:37 韓国産業相

「12 日に東京で協議することを計画し、そこで韓国の立場を説明」

「韓国が北朝鮮にフッ化水素移送したとの日本の主張は間違い」

9 日 21:26 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「FRB は雇用指標ではなく、物価指標をみるべき」

「物価の安定とドルの安定が FRB の目的とすべきもの」

「ドルは安定し信頼できる通貨であるべき」

「トランプ米大統領は他の通貨が弱くなり過ぎていることを懸念」

9 日 21:29 コンウェイ米大統領上級顧問

「ムニューシン米財務長官とライトハイザー-USTR(米通商代表部)代表はまもなく中国へと向かう可能性」

9 日 23:33 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁

「更に利下げが必要なら、我々には手段がある」

「インフレは目標よりも下回っている、成長率の見通しもダウンサイドのリスクがある」

「リセッションの兆候は見えないが、成長見通しには長期的な不確実性がある」

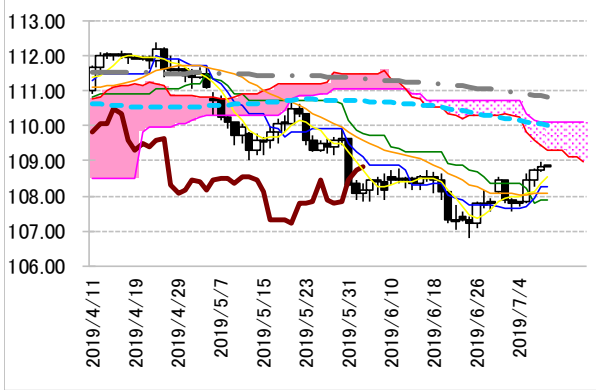
10 日 00:31 コブニー・アイルランド外相

「合意なきブレグジットでも、物理的境界線をつくることを避ける」

10 日 04:25 ポスティック米アトランタ連銀総裁

「FRB は労働市場過熱のメリットとリスクについて討論し

〔日足一目均衡表分析〕

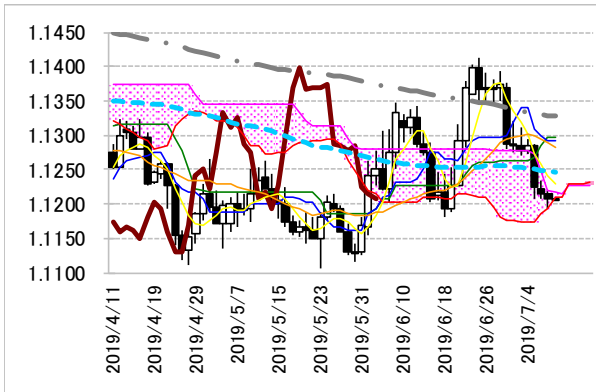


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の下で推移しているものの、買いシグナルが優勢な展開となっている。4日の寄り引同事線、3手連続陽線で反発基調にあり、雲を上抜けることが出来るか否かに要注目となる。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	110.11(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	109.32(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	108.85
サポート 1	108.25(日足一目均衡表・転換線)

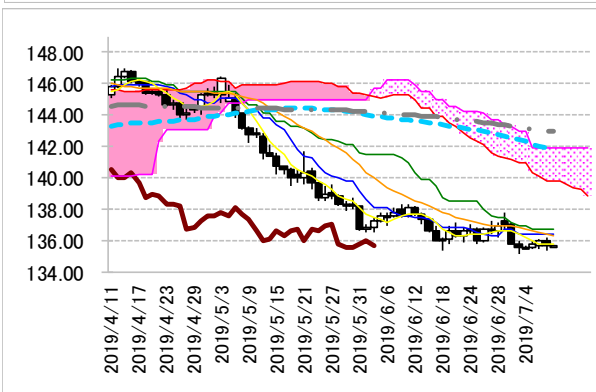


<ユーロドル＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回ったことで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯した。

本日は、雲の下限 1.1209 ドルを念頭に置き、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1297(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1208
サポート 1	1.1107(5/23 安値)

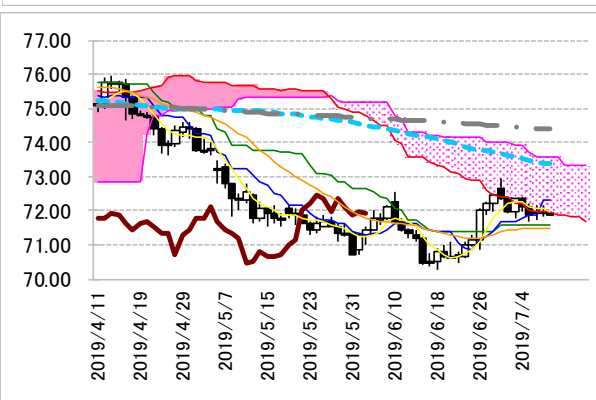


<ポンド円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	136.49(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	135.71
サポート 1	135.40(7/9 安値)



<NZドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。遅行スパンは実線を上回り、一目・転換線は一目・基準線を上回り、雲の下で推移していることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、一目・転換線を下回っていること、雲の上抜けに失敗していることで、下落トレンド再開の可能性が高まりつつある。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	72.32(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	71.91
サポート 1	71.60(日足一目均衡表・基準線)

